



紙面のガーデニング
ラクに設置された巣箱

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

浦学だより

Vol. 88

336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山172

048-878-2101 048-878-3335

<http://www.uragaku.ac.jp/>

発行者 浦和学院高等学校広報部

編集者 浦和学院高等学校企画部

4年ぶり11回目の 夏の甲子園出場



今年の春の全国選抜大会に続き、本校野球部が埼玉代表として第94回全国高校野球選手権大会に出場しました。

1回戦は高崎商業高校（群馬）に6-0、2回戦は聖光学院（福島）には11-4といずれも打線は好調、エース佐藤（3年）も安定して相手チームを抑えてきました。しかし、3回戦の天理高校（奈良）との試合では、前半に失点が続き、打線もチャンスが何度かあったものの、逆転するまでの点数には結びつかず2-6で試合終了となりました。

県大会予選から応援してくれた全校生徒をはじめ、保護者の方々、一般の方々、本当にありがとうございました。また、生徒会が陰で支え、吹奏楽部・ソングリーダー部で盛り上げてきたファイヤーレッズの応援、そして、ベンチ入りはできないけれど、応援席で音頭をとり続けてきた野球部員たちにも大きな拍手を送りたいと思います。みなさんの声援があってこそ、選手たちもここまで頑張ってこられたのだと思います。次は、来春の全国選抜大会出場をめざして練習に励んでください。

最後に、本校がボランティア活動で交流を続けている被災地の石巻市や女川町のみなさん、応援ありがとうございました。

ベスト16

男子テニス部

3年K組 弘岡 駿治
(シンガポール日本人学校出身)



私たち男子テニス部は、団体戦ではインターハイ出場を果たせなかったものの、個人戦ではシングルス1名、ダブルス1組が出場することができました。

団体戦での悔しさや、今まで一緒に壁を乗り越えてきた仲間の想いを胸に、最後まで諦めずに全力を尽くしました。

結果はシングルスベスト16、ダブルスベスト32でした。

これまで支えて下さった先生方、両親や共に部活をやってきた仲間達に感謝し、これからも浦学で培った経験を活かしていきたいです。

ベスト8

女子テニス部

3年L組 秋元 玲乃
(入間市立東金子中学校出身)



私たち女子テニス部は団体戦、シングルス、ダブルスと全ての種目でインターハイに出場する事ができました。団体戦では昨年の悔しさ、そして男子の分の想いを背負い、関東で優勝し、そのままの勢いで挑みました。結果は準々決勝で早稲田実業高校に負け、ベスト8となりました。悔しさの残る試合でしたが、それぞれのベストを尽くした最高の団体戦をする事ができ、今後に活かせるものとなりました。

今まで支えて下さった保護者の方々、先生方、関係者様、そして部員全員に感謝をしたいです。ありがとうございました。今後とも一層練習に励み、頑張っていくので、みなさん、応援宜しくお願い致します。

部活動大会報告

インターハイのハイ出場

男子ハンドボール部

3年K組 柿崎 雅俊
(三郷市立早稲田中学校出身)

私たち男子ハンドボール部は、今年の春、全国選抜大会でベスト8という結果で終わってしまった悔しさをバネに毎日練習にはげみ、インターハイ予選では、浦学ファイヤーレッズの応援の中川口東高校に大差をつけて優勝し、もう一度全国に挑戦する切符を手にすることができました。

そして、優勝を狙って挑んだインターハイの1回戦。自分たちのミスが続き、普段通りのプレーができずに初戦敗退という不本意な結果で終わりました。大事な場面で普段通りの力が発揮できなかったことは、自分たちの甘さだと感じました。この3年間、厳しく指導して下さった岩本先生をはじめ、応援していただいた保護者の方々、浦学の応援団の方々には心から感謝しています。後輩達には自分たちができなかった全国制覇を目指し頑張ってもらいたいです。これからも浦学ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。



ソングリーダー部

2年F組 近藤 綾音（川口市立西中学校出身）

私達SPLASHは、8月25日に平塚総合体育館で「School & College Competition 2012」という大会に出場しました。今年の夏は甲子園での野球応援もあり、大変な部分もありましたが、とても貴重な経験をさせていただきました。甲子園応援により大会練習の時間を確保するのが大変でしたが、みんなの気持ちを1つにしたこと、新チームになってから初めての大会で5位に入賞することができました。先生方、コーチ、保護者の方々、先輩方への感謝の気持ちを忘れずにチアスピリットである「元気・笑顔・感謝」をモットーに次の大会に向けてがんばります。これからも応援よろしくお願いします。

フレッシュマン
キャンプ

1年Q組 丸山 雅恵（川口市立幸並中学校出身）

1泊2日のフレッシュマンキャンプは、普段あまり自然と触れ合うことのない私たちにとって、とても貴重な体験であり、素晴らしい思い出になりました。

1日目に行ったオリエンテリングでは、班員のみんなと山道を歩いて、協力しながら頑張ったことで女子で1位になることができました。鳥の声や、今まで見たことのない植物もあり、たくさんの発見があって楽しかったです。

2日目のバーベキューは、自分たちで火をおこしたり野菜を切ったりして、クラスの絆が深まったと思いました。家族とバーベキューを行ったことはありましたか、友達と一緒にやったバーベキューは、とにかく楽しくて、とても良い思い出になりました。

このフレッシュマンキャンプを通して、友情の大切さや、自然を大切にしていくことなど、改めて考えさせられました。短い時間でしたが、中身の濃い2日間になりました。



部活動大会報告

全国大会出場

パワーリフティング部

2年I組 谷澤 直紀
(川口市立戸塚中学校出身)

私は、8月5日の全国大会に出場してとても悔しいと思いました。なぜなら、昨年の全国大会では団体優勝を経験していたのに、今大会の結果は、あまりよいものではなかったからです。その原因としては、都合上、出場人数が少なかったこと、練習に対して集中力が多少欠けてしまったことが考えられます。このようなことを経験したので、来年の全国大会では部員全員が練習に集中し、個人でよい成績をとり、団体優勝もできるように目指したいと思います。



芸術鑑賞会

進学類型

1年F組 真中 彩
(さいたま市立第2東中学校出身)

私は7月10日にさいたま市文化センターで行われた芸術鑑賞会で中国雑技を見ました。このような公演を観賞するのは初めてだったので、とても楽しみにしていました。

獅子舞や回し、高輪車、ローリングバランスなど、そのほかたくさんのがんばらしい演技を見ましたが、私が一番感動し、興味を持ったのは“変面”でした。“変面”的ことはテレビでやっていたのを見たことがあったのでどういうものかは知っていましたが、実際に目の前で一瞬にしてお面をえるところを見ると種も仕掛けもわからず、さらに謎は深まるばかりでした。

どの演技も毎日血の滲むような努力をしているからこそできるものなのだと見ていて本当に感心しました。また、来年の芸術鑑賞会ではどのような公演が観られるのかとても楽しみです。



特進類型

3年D組 片岡 佑太
(さいたま市立大成中学校出身)

私は、今回の芸術鑑賞会で「ラ・ボエーム」というオペラを観ました。オペラはミュージカルとオーケストラが同時に楽しめて様々な見方ができるので、個人的にオペラはすごく好きです。1年2年とオペラを観てきて3回目のオペラだったのですが、今まで観てきた話の中で一番共感でき泣ける話でした。4幕あるうちの1幕目は、話があまりわからなかったのですが、2幕目は戯曲のような展開でなじみのある内容でした。3幕からは、悲しい恋の話で自分だったらどうするかを考えさせられるような話でした。そのような奥の深い話に加えて、オペラの役者さん達の素敵なお声が聴けた今回の芸術鑑賞会は充実したものになりました。今回で高校生活最後の芸術鑑賞会になってしまいましたが、また機会がありましたら観てみたいと思います。



キャリアガイダンス

7月6日期末テスト最終日、職業の事をよく知つてもらおう、将来の選択に役立ててもらおうという目的で「キャリアガイダンス」が校内で行われました。対象は1学年の生徒です。今回の参加者はほぼ全員の802名。コンピューターから看護、公務員、スポーツ、放送・映像にいたる全31講座が開かれました。講演をしてくれたのは大学や短大、専門学校の先生方です。11時40分、生徒は自分が受講する講座の教室に移動し、講師の先生を待ちます。事前に選ばれた代表生徒は先生方を誘導し、講義開始となりました。講師の中には浦和学院の卒業生も参加しています。いくつか参加した生徒の声を挙げてみたいと思います。「勉強と仕事の違いがよくわかった」「ファッショングに関しての仕事の多さにびっくりしました」というように、実際の仕事についての話が聞けたかと思います。2学期以降の文理選択や将来について、これを機会にしっかり考えてみて下さい。

1学年進学指導主幹 刘込 晓夫

24年度受験シーズンに向けて

夏休みも終わり、今年度もいよいよ本格的な受験の時期を迎えることとなりました。推薦入試では、10月1日から願書受付が開始されますので、特に推薦入試を希望している生徒たちにとっては、一日一日がとても貴重な準備期間となっているのではないでしょうか。

現在、大学受験は、再び過熱傾向にあります。18歳人口が119.1万人から123.1万人となり、大学進学希望者も増加する中、今年度もかなり厳しい入試になることが予想されます。このような状況で、自分に合った学校選びをすることは難しいことだと思います。

今年、生徒たちと面談をしていて感じことがあります。一つは「私の成績で行ける大学はありますか?」と相談してくる生徒が非常に多いことです。このような生徒には、「行ける大学」よりも「行きたい大学」を目指すように指導しています。安易に妥協せず、志を高く持つて、挑戦する気持ちを忘れないでほしいと思います。二つめはいわゆる偏差値に振り回されている生徒が多いことです。もちろん学校選びをする際には、偏差値は重要な項目でしょう。しかし、だからといって振り回されてしまふのではなく、実際、各予備校や業者が示している数値にはかなりの違いがあります。偏差値はあくまでも目安です。偏差値にこだわりすぎ、その学校の本当の価値を見失わないようにして下さい。

私は、長年進路指導に携わってきており、毎年多くの体験をさせてもらっています。そして思うのは、一人ひとりにドラマがあるということです。もちろん全員が希望した大学へ行けるわけではありません。中には相当な努力をしたにも関わらず、不合格となってしまう生徒もいます。しかし、努力したという事実は、自信や財産となって残るはずです。生徒たちは、この受験を通して、大きく成長していくことを願っています。今年もこの頑張る生徒たちを教員一同全力で応援します。

進路指導部長 高橋 広和

特進類型 夏季合宿進学講座

毎年恒例の特進類型夏季合宿進学講座が、7月26日から30日までの5日間、長野県車山高原にて行われました。朝は6時30分からテスト、夜は10時20分まで授業や自習というハードスケジュールでしたが、一生懸命取り組んでいました。

1・2年生は英数国語の3教科に加えて、数学のグループワークを行いました。授業とはまた違った雰囲気で和気あいあいと、みんなで協力して問題に真剣に取り組んでいました。3日目には、車山高原にリフトで頂上まで登りました。

空気がとてもおいしく、息抜きとなり、みんな楽しんでいるようでした。

3年生は5教科選択制で、空いた時間は自習や面談を行いました。一人一人が明確な夢を持ち、真剣に毎日を過ごしている姿には、こちらも圧倒されました。

閉校式では、頑張った生徒に表彰が行われました。3年生はテストで100点が続出!さすがです。1・2年生も多くの生徒が表彰され、景品をもらっていました。

この合宿でそれが努力したこと、学んだことを忘れず、今後の受験勉強、学校生活に役立てて欲しいと思います。



大学・短大説明会

7月7日土曜日。今日は七夕です。浦和学院の生徒と大学との良縁が結ばれるように、この日に説明会を実施しました。説明会は10時から開始の予定が、大学の先生は早い方で8時10分から来校していただき、生徒は9時過ぎには集まってきたました。この日は天候が悪いこともあり、校舎に早く入れたところ、説明会場の教室前にはすでに順番を待つ列ができていました。10時より説明会が始まり、生徒もオープンキャンパスと同様に熱心に大学の先生方に質問をしていました。ノートにしっかりとメモをとっている生徒もいて、大学の先生もその姿を見て感心していました。当日の3年生730名が参加して終了时刻の12時まで盛況でした。説明会が終わり、見送りの挨拶をしましたが、どの大学の先生も興奮冷めやらぬ様子でした。

これから、3年生は本格的に入試の準備・試験が始まります。初心を忘れずに、そして、努力は必ず報われることを信じて挑戦して下さい。

第3学年 進学指導主幹 仁科 達夫



自転車運転免許制を導入



昨年9月、全国初の試みとして、全校生徒対象に「自転車講習検定」を実施しました。埼玉県警察交通企画課・浦和東署交通課の方に講演していただいた後、交通規則の正誤試験を受け、評価(階級)別に[自転車講習検定証]を交付しました。

そして、さらなる交通マナー向上と交通事故防止を目指し、「自転車運転免許制」を導入することになりました。5月11日、まずは1年生の自転車通学者を対象に「自転車運転実技試験」を実施。放課後、浦和東署交通課の全面協力のもと行われたスタントマンによる交通事故シミュレーションを見た後、実際に生徒が自転車に乗って実技試験を受けました。

実技試験・指導の結果60点以上を基準として、「自転車運転免許証」を生徒に交付。全体の約4割が自転車通学者である本校では、交通マナー向上と交通事故防止のための安全走行がとても大切です。生徒全員が安全に通学できるよう、交通ルールを守り、生徒一人一人が高い意識を持つてください。

今年も【浦学ふあみり～応援写真コンテスト】に応募しよう!

今年もまた、「がんばる仲間をみんなで応援」をスローガンに「浦学ふあみり～応援写真コンテスト」を実施します。

日 程	○応募期間 2012年11月30日(金)締切 ○投票期間 3年生………2013年1月15日(火)～19日(土) 1,2年生………2013年1月15日(月)～28日(月)
応募方法	○結果発表 2013年2月4日(月)
	1. 対 象 部活動、学校行事、ボランティア活動など学校生活の様子 2. 提出物 ①写真、SDカード、USBメモリーのいずれか ②応募用紙(用紙は学校にて用意しています。) 応募者名、撮影日、大会・イベント名、撮影シーンの説明を記入 *生徒の場合は学年・クラスも記入 3. 提出方法 生徒→ 保護者→生徒→ → 担任

*部活動大会の応援時撮影写真など、生徒のみなさんはもちろん、保護者の方々からもたくさんのご応募をお待ちしております。お子様を通してご応募ください。

学校の情報が満載のHP「浦学ふあみり～」(<http://www.uragaku.ac.jp/family/>)は《浦和学院高校ホームページ→浦学ふあみり～》からご覧になれます。

2年S組 小嶋 美穂子 (さいたま市立東浦和中学校出身)

活動場所：介護老人施設あさがお
活動内容：介護施設内での“納涼祭”お手伝い

私は、今回初めてボランティアに参加しました。前から参加してみたいと思いながら、なかなか実行に移すことが出来ずにいました。しかし、高校に入ったことをきっかけに何か新しいことをしたいという思いがあったので、ボランティアに参加ということにチャレンジしました。

施設に着いてからは、はじめは緊張してどうすればよいのか分からなかったけれど、浦学の同級生に話しかけることができ、そこから施設の方などともたくさんコミュニケーションをとることができました。活動中の4時間はあつという間にすぎていきました。

ボランティアに参加してみて、初めての経験がたくさんできました。これから進路についても今回の経験は、自分の選択肢を多くするきっかけになると思います。1回で終わりではなく、また参加できればいいと思いました。

ボランティア報告

3年N組 松尾 莉沙 (さいたま市立尾間木中学校出身)

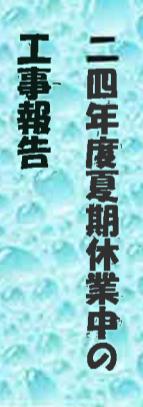
活動場所：アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA)事務局
活動内容：南アフリカに送る本の仕分け、梱包作業

私は、今回初めてボランティア活動に参加しました。活動内容は本の梱包で、主に、「段ボール組立・本を詰める・段ボールに本の数と、重った重さを記入する」という単純なものでした。しかし、実際に始めてみると、本によって大きさが様々で、沢山隙間ができてしまったり少ない数しか詰めることができなかったりと、たいへん難しく、何とか失敗もしました。慣れてくると少しづつ詰められる数をふやすことができたり、作業のスピードを上げることができるようになり、パズルをしているような感覚でとても楽しかったです。

私は、今回の体験から、ボランティアには多くの人が関わっていることを知りました。多くの本を送ってくれる学校や公共の図書館、そしてその本を整理し梱包するTAAAの方たちと、アフリカなどに住む子供たちのために様々な人々が協力してボランティア活動を行っていることがわかりました。私は、この活動に参加できて本当に良かったと思います。

私は、宮城県の石巻市へ学習支援をしながら、保育所、学校、中学校を訪れ、沢山の町並みを見てきました。石巻市へ到着した朝、私がまず始めに見たものは、壊されたままの家やお店でした。瓦礫は撤去されたものの、山積みになつたままで処分はされていませんでした。大震災が起きてから一年以上も経つのに、まだ復興できていない事を知りました。今回の活動での一番の目的である学習支援では、大原小学校に訪れ、沢山の子ども達とふれあうことができました。最初は、しっかりと教えることができるのだろうか、初対面の私達を受け入れてくれるのだろうかと少し、不安がありました。が、大原小学校の児童の皆さんは私達を、以前から友達だったかのように感じさせるくらいあたたかく迎えてくれました。勉強が始まってからみんなの顔はさつきまでふざけ合つて笑っていた時は変わって、やる気にあふれた姿勢で一生懸命取り組んでいました。難しい問題に躊躇していました。難しい問題に躊躇していました。その後、あきらめず考え、私の解説を真剣に聞いてくれました。その後、「あっ！なるほど」と言つたような顔でもう一度ペンを持ち直し、自分で解こうとする姿を見て、私も受験勉強をもつと頑張らないと、と言う気持ちになりました。勉強後のレクでは、みんなでドッヂボールをしたり、だるまさんが転んだなどをしました。体育館の中、校庭を駆け回ったのは久々でしたが、私も小学生の頃に友達と校庭で鬼ごっこやだるまさんが転んだなどをして良く遊んでいたなあと懐かしく思いました。小学生のみんなが全力で向かって来てくれるの、で、私達もとても楽しむ事ができました。私達も小学生のみんなもお互いにふれ合い、遊び合う交流が出来たと思います。私が今回の活動で一番衝撃を受けたのは、大川小学校を訪れた時でした。生徒の三分の二の人が、津波によって命を奪われたり、行方不明の人人が沢山いる事を聞いた時は、どうしてこんなに被害が大きかつたのだろうとびっくりした気持ち

いましたが、津波にのみ込まれてしまつた校舎を見た時に感じ、ぞつとするとともに、この災害の日に子ども達や先生達が恐怖で懸命に逃げ回る姿が目に浮かびとても悲しい気持ちでいっぱいになりました。涙が出来ました。コンクリートですら壊されてしまった校舎の中は教室があつたとは思えません。校舎を見ているだけでも、色々な物を感じ、色々な感情が込み上げてきました。



【第一・第三校舎耐震工事】
第二、第一、第三と続き計画的に行われてきた昇降口改修工事は、第四校舎で最後となります。照度を満たした明るく開放的なスペースで整理よく並べられた下駄箱は、広さを確保し使い勝手を良くしました。
【第四校舎昇降口改修工事】
三年計画で行われる耐震工事に着手しました。耐震対象となる建物は、昭和五六年以前に建設が行われたものです。二四年度は、普通教室の多い第三校舎・第一校舎を行い、二五年度は二階建ての第二校舎、二六年度に教務室や事務室のある管理棟を行います。
従来の外観を損ねる工法ではなく、スパック工法を用い、耐久性、美観、工期を優先に行われました。

特進コース 学習サポート交流活動を通して

3年D組 中澤 美穂
(さいたま市立内谷中学校出身)

浦和学院高等学校 石巻交流プロジェクト

「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

第18回交流活動 石巻市立大原小学校 第19回交流活動 南方ナーシングホーム翔裕園

昨年度に引き続き、夏休みを利用して生徒参加による被災地の交流活動が実現しました。大震災から1年半が経過、瓦礫等は徐々に片付けられてはいるものの、被害に遭った建物等はそのまま残されている所も多くあります。

現地の方々の求めていることは、経済的なことはもちろんですが、「どんな形でもいいから話を聞いてもらいたい、寄り添ってもらいたい、忘れないで欲しい」との声が聞かれます。

今年も野球部の交流活動の継続は予定していますが、新たな取り組みとして、特別進学コースによる「学習サポート活動」を計画しました。縁あって、新たな交流先として、石巻市南端の牡鹿半島にある石巻市立大原小学校で8月6日~8日までの3日間、生徒4名、教職員3名の計7名が参加し「共に歩む 勉強会」が行われました。また、保健医療コースも昨年に続き、南方翔裕園で3日間の活動を行いました。



保健医療コース 南方翔裕園交流活動を通して

3年V組 岡本 佳奈 (さいたま市立土呂中学校出身)

今年の夏、私は東日本大震災が起きてから2回目の被災地訪問をしました。去年行ったときは震災が起きてから半年ほどしか経っておらず、まだまだ被害の大きさの爪痕が残っていたのが印象的でした。また改めて今年の夏に行って、同じ場所で同じ風景を見て去年と比較すると、だいぶ復興が進んできているように感じました。たくさん山のように積まれた瓦礫がすぐに見て分かるくらいに減っていたので驚きました。しかし、町や駅に出てみると、本来、建物があるべき所に何もなかったり、津波の水嵩のあとが生々しく残っていたり、お店等も壊れたままで開店の兆しが見えないような状態が至る所にありました。ニュースや新聞の報道ではだんだんと震災の現状を伝えることが少なくなっているのを感じるので、再び今の状態を社会に伝え、まだまだ復興には時間がかかることを一人一人に再認識してもらいたいと痛感しました。

翔裕園へお邪魔させていただき活動をしたときは、心の面と経験を全てに対して勉強になることばかりでした。最初は利用者の方とコミュニケーションを上手に取れるかどうかとても不安だったけれど、利用者の皆さんは気さくで自分の話をたくさんしてくださいましたので、心が温かくなり落ちついて活動することができました。私が活動中に一番印象に残ったのは、ちょうど進路に迷っているときに利用者さんが相談に乗ってくれ、「あなたなら大丈夫。接している感じ、思いやりがすごく伝わってきて優しい子だから立派になるわ。頑張って。」と手を握って優しい言葉をかけてください、思わず涙が出そうになりました。利用者の方は、若い人のパワーで元気になれるおっしゃっていましたけれど、私も人生の大先輩からの優しい言葉をいただいて大きな勇気と元気をもらいました。

また、一緒に行動してくださった看護師さん、介護士さんにもとても感動しました。忙しく時間がない中、利用者一人一人の病状や性格、その人の生活パターンまで理解していたのを見て驚きました。一人一人気をつけなければいけないこと、毛布の掛け方一つでも工夫がされていて、看護師さん達の視野が広いことに感動しました。今後、医療従事者を目指す上で、当たり前のことになるだろうけれど、今そのようなことに気づけたことが嬉しかったです。

このような貴重な経験をさせていただけたことなんて今後、なかなかないことだと思うし、自分が経験できたことをとても嬉しく思いました。先生を始め施設長、指導していただいた看護師さん、介護士さん、関わっていただいた全ての方に心より感謝申し上げます。